

日本酒とガンダム



会員 中川 裕幸

ご存じの方もいらっしゃるかとは思いますが、私は日本酒が好きです。全国に個性的な美味しい日本酒がたくさんあり、元気でこの世にいるうちにそれらを一通り経験してみたい、という好奇心が根底にあります。鉄道に乗ることが好きということもありますが、美味しいと思った酒蔵は、機会を見つけて訪ねたりもしています。

また、ご存じの方は少ないのですが、私はアニメの「機動戦士ガンダム」シリーズが好きです(ガンダムが好きと明言している弁理士を数名しか知らないので、業界で話す相手は限られていますけれど)。ファースト(オリジナル『機動戦士ガンダム』)がTV放映されたのは1979年ですからもう43年前のことで、人生の7割ぐらいを付き合っている計算になります。ガンプラ(ガンダムシリーズのプラモデル)はマニアという程ではありませんが、適当にストックしつつ、ぼちぼち組み立てています。

今回、弁ク通信への原稿を寄稿する機会をいただいたので、この一見全く交わることのないように見える、2つの分野の交差点について、紹介することとします。

(1) 「作/ZUKU」(清水清三郎商店・三重)

日本酒「作」は、今や、日本酒ファンから一目置かれる人気のお酒です。とても飲みやすく、キレもよいお酒です。私が最初に飲んだのは、もう10数年前のように記憶していますが、その時は、ガンダムファンとしての「ザク買い」で、味的にはさほど印象が残っていませんでした。しかし、その後、どんどんおいしくなると、今や日本酒ファン安心の銘柄になっています。東京であれば、「はせがわ酒店」や「いまでや」の各店舗で、手軽に購入することができます。



私の日本酒ファン歴はこの10数年で、高校生からのガンダムファン歴に比べて短いためはっきりとは言えませんが、この「作」、古くからの銘柄ではなく、「ガンダム」の登場以降だったようです。ちなみに、日本酒「作」の商標登録(商標登録4613003号「作/ざく」)は2002年10月18日ですから、『機動戦士ガンダム』のTV放映後、23年後です。

(J-platpatのurl)

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1800/TR/JP-2001-092884/117ABB6AE4AC20D23EDD486A1B73026991AFA0766800B75729A159AE38676AA4/40/ja>

意図があったかはわかりませんが、この日本酒の命名者も意識はしていたことでしょう。ただ、日本酒「作」の快進撃は、今や本家のザクに勝るとも劣らない状況になってきており、ガンダム・日本酒の両ファンとしては大変喜ばしい状況になっています。

(2)「彗／シャア」(遠藤酒造所・長野／イズミセ・京都)

これは最近出された銘柄です。明らかにガンダムのシャア・アズナブルを意識しているものと思われます。早速飲んでみましたが、「作」に比べて少し重く感じましたが、それでも今風な飲みやすいお酒で決して悪くありません。なお、長野のお酒ということで、新橋の長野のお酒専門店、「信州おけさ村」を覗いて見てみたのですが入っておらず、結局、アマゾンで購入しました。ガンダムファンは、話のネタです、是非、一度飲んでみてください。

ちなみに、「彗／シャア」も、2017年12月8日に商標登録されています(商標登録6002016号「シャア／彗」)。商標権者は、京都の株式会社イズミセという酒問屋さんで、この銘柄も扱っているようなので、プロデュースが同社なのか、関連があるようです。

(J-platpatのurl)

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1800/TR/JP-2017-042186/12611ACBD36031BF3EA4AFA8939687221675058E8C5C9CFCAA8BD63DAD42FC3D/40/ja>

さて、ここで、ガンプラの紹介を。「作／ZUKU」、「彗／シャア」と、ガンプラの記念撮影をしようと思って、MG(1/100)のザクver. 2.0を組み立ててみました。この2年間のコロナのお家時間が、まさにガンプラのストック解消に役立ちました。

このVer. 2.0は、2007年に内容を一新させたキットで、バンダイのガンプラを代表するような素晴らしいキットです。改めて、コロナでバンダイ・ナムコの株価が上昇した理由がわかりました(笑)。完成すると見えなくなる骨格フレームまでしっかり模型化されていて、組んでいて楽しいです。なお、ザクの初期設定では、モノコックボディ(重量を外骨格で支える構造)だったはずなのに…などと、文句を言うてはいけません(そういう人は、宇宙仕様の初期型はモノコック構造、F型を含む地球仕様となった後期型はフレーム構造と考えましょう)。



ちなみに、ここは、シャア・ザクじゃないの、とツッコミを入れたアナタ、もっともです。ですが、私のガンプラのストックにシャア・ザクは一つもありませんでした。弁理士の宿命なのか、量産型にしか興味がなく、ジョニーライデン・ザクしかり、カスタマイズ仕様のガンプラは一つもありませんでした。



(3)「三連星」(美富久酒造株式会社・滋賀)

これも偶然?と書いてしまいますが、後で述べるように意図しての命名のようです。上の2本に比べて、もう少し日本酒らしいしっかりした味のお酒でした。ただ、ガンダムの三連星のように、飲み手を選ぶほど个性的かと言われればそこまでではなく、普通においしいお酒です。

この商標は昨年、2021年12月28日に登録がなされたばかりです。登録商標は、標準文字などを使うことなく、個性的な図形商標です(商標登録6493052号「三連星/さんれんせい」)。現在、この商標のラベルで流通しているようですが、私が昨年入手したときは、以下に示す、写真のラベルでした(以下、MSラベルと呼びます)。御覧のように弁解の余地がないぐらい、確信的なものです(笑)。私は昨年、東京駅八重洲地下街の「リカーズハセガワ」にて入手しました。

(J-platpatのurl)

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/c1800/TR/JP-2021-070153/171C7B3D42551232825D4E326DB2042EBC40CEF890550CA5A5334ACBB64D530F/40/ja>

そこで、弁理士として興味があるのは、このMSラベル仕様を、ガンダムの著作権を有するサンライズがどのようにみているか、ということです(ライセンスを受けた商品ではないように思います)。酒造会社が商標を取得したことで、「三連星」の文字使用に一つの正当な理由を獲得したわけですが、一方で、下記のMSラベルは不競法の問題が生じる可能性があります(現在、この登録商標を受けたラベルで販売しているのも、多少、気を使わざるを得ないからかもしれません)。何らかの権利抵触をバンダイ・ナムコが申し入れるにしろ、個人的には、こういう商品が消えるのでは、決して面白い世の中にはならないと考えます。例えば、「三連星」と「慧/シャア」をセットにして、バンダイプレミア(同社の通販サイト)で売り出すとか、株主優待で配るとか(ハイ、私は一株持ってます(笑))、うまく関係を築いてほしいと思います。



さて、ここでも、ガンプラの紹介を。一緒に撮影したのは、MG (1/100)のドムです。三連星といえばジェットストリームアタックのドムです。ガイア・マッシュ・オルテガと3機も作れなかったので、1機だけです(笑)。残念ながら、このMGドムは初代のVer. 1.0です。Ver2.0も昨年(2022年)2月に発売されていますが、私は市場で一回も見えていません(苦笑)。ご存じのように、ガンプラの品薄状態は、現在進行形です。バンダイ・ナムコさん、何とかしてください。

(番外編)「勝山」(仙台伊澤家 勝山酒造株式会社・宮城)

私がただ単純に、この銘柄を紹介したいというだけの、「他人の空似」的な関係です。銘柄は「勝山」で、会社名からわかるように仙台藩御用達だったお酒です(この登録商標番号を書きおきますと、6181974号です)。飲んでいただければわかるように、とてもさらっとした綺麗なお酒で、日本酒として非常にお勧めです。下の写真の銘柄「猷」やその下の「縁」でも十分ですが、この上の「レイ」(JIS漢字が無いです(泣))に至ると、メロン果汁のような上品な感じになって、日本酒の可能性の広さを感じます。

なお、伊達政宗のような個性ある武将からは想像できませんが、宮城のお酒には「勝山」のような綺麗なお酒が多く、他に、「美祿」(男山本店)、「愛宕の松」「伯楽星」(新澤醸造店)などがあります。日本酒初心者には、宮城のお酒がお勧めです。

閑話休題!…で、何を話したいかという、「勝山」のボトル表面には、ラベルのみならず模様が彫刻されているんですが、これがとてもおしゃれだというだけでなく、そのマークが、ガンダムの連邦軍の徽章にどこか似ているのです。完全一致ではないのですが、ガンダムファンとしては、「勝山」を飲むとき、いつもガンダムを思い出してしまうのです。



このお酒にちなんで、連邦軍メカのMG(1/100)Ver. Kaのボールを組み立ててみました。作業用ポッドを軍用に改造したという設定(モビルスーツですらない)は、筆者の琴線に触れるところで、主人公のガンダムなどよりはるかに思い入れが強いメカです。ガンダムが持つ武器としてのハイパーバズーカを頭に搭載した、という設定のため、いざガンプラを設計したら、これが作業ポッド?というぐらい大きなものになったといういわくつきのメカです(笑)。ただ、その設定の甘いところを補って十分なディテールが施されており、MGの面目躍如という模型でした。

以上